台大日本語文研究第 45 期
2023 年 06 月，頁 95-120
2023-03-30 收稿，2023-05-22 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202306_(45).0005

讓步的「さえ～ば」與非讓步的「だけ～ば」

陳昭心*

摘要

本研究試著討論「さえ～ば」與「だけ～ば」的不同，來思考誤用修正時應該如何說明。有先行研究認為兩者在表現「最低條件」時近乎同義，但本研究認為，依據表現機能的不同，兩者是互相對立的。

「さえ～ば」的本質確實是所謂的「最低條件」，精確地說就是相對較弱的條件。但因為存在更強的條件，所以其表現機能在於: 讓步採取相對較易達成的方法。

而探討「だけ～ば」的本質，應該要同時考慮其互相矛盾的兩義性。因此，其本質應認為是: 限定了不能讓步的最少（但必備，所以其實可以說是最強的）條件。

關鍵詞：「さえ～ば」、「だけ～ば」、條件、讓步、非讓步

臺灣大學學術期刊資料庫

* 國立臺灣大學日本語文學系副教授

Concessive *Sae-Ba* vs. Non-Concessive *Dake-Ba*

Jaushin CHEN*

Abstract

In this study, I discuss the difference between *sae-ba* and *dake-ba*. According to the previous studies, *sae-ba* means the minimum condition and it can almost be replaced with *dake-ba*. But I think *sae-ba* and *dake-ba* are opposite.

The minimum condition expressed by *sae-ba* means comparatively weak condition and also means that stronger conditions exist, so it tends to be used to show concession.

Dake-ba does not always mean the minimum condition. Actually, because it always means the irreplaceable condition, *dake-ba* tends to be used to show no-concession.

Key words: *sae-ba*, *dake-ba*, condition, concessive, non-concessive

臺灣大學學術期刊資料庫

* Associate Professor, Department of Japanese Language & Literature, National Taiwan University

譲歩の「さえ～ば」と非譲歩の「だけ～ば」

陳昭心*

要旨

本稿では、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違いを検討し、誤用例の修正の説明を考える。「さえ～ば」と「だけ～ば」はほぼ同義に解釈されることがあると言われるが、どちらのほうが適切なのかは表現機能から決まり、互いに対立した表現機能を持つと考えられる。いわゆる「最低条件」を表す「さえ～ば」が、相対的に弱い・比較的達成されやすい条件へと譲歩するのに対して、「だけ～ば」は、譲歩できない最少（でありながらの最強）条件を限定している。つまり、「さえ～ば」は条件の譲歩を表すのに対して、「だけ～ば」は条件の非譲歩を表すと言える。

キーワード：「さえ～ば」、「だけ～ば」、条件、譲歩、非譲歩

臺灣大學學術期刊資料庫

* 国立台湾大学日本語文学科准教授

譲歩の「さえ～ば」と非譲歩の「だけ～ば」

陳昭心

一、はじめに

日本語学習者の使用例（1）は（2）のように訂正され、「だけ」の使用がなぜ適切ではないのかについて、（3）のように説明されている。

（1）誤：規則がなくても人を取り計らう心**だけ**あれば、世の中はもっとうつくしく、住みよい社会になると思います。

〈韓国〉

（2）正：規則がなくても人を思いやる心**さえ**あれば、世の中はもっとうつくしく、住みよい社会になると思います。

（3）18 は誤りではない。例えば「屋根だけあれば生活できる」は「壁」「浴室」などを不要とし「屋根」のみに限定する。一方、「屋根さえあれば生活できる」は他のものもあったほうがよいが、生活できるためには最低限「屋根」がほしいという意味になる。つまり「～だけ～ば」は必要条件を述べるという意味で文法的に間違いではないが、「～さえ～ば」としたほうが後件（主節）で述べられる事柄の「望ましい事柄の実現のために」という意味合いが入り、より適切な文になる。18 も「美しく住みよい社会の実現」を願っているのであるから、単に限定を表す「だけ」でなく「さえ」を使用したい。

（市川ほか 2010:323-326、18 は原用例番号、下線引用者）

しかし、最低限の「さえ～ば」、必要条件の「だけ～ば」、と文字通りに覚えていても、（1）の「だけ」が「文法的に間違いではない」とされているのなら、なぜ「さえ」ほど適切ではないのか、なぜ「さえ」のほうが「望ましい事柄の実現のために」という意味合いが入るのか、母語話者のようには実感できない。

臺灣大學學術期刊資料庫

「さえ」と「だけ」はある意味では対立している[1]。それにもかかわらず、「さえ～ば」と「だけ～ば」はほぼ同義に解釈されることがあると言われている。例えば、沼田（2009）は「極端」の「さえ $_1$」と「最低条件」の「さえ $_2$」に分け、後者の例として（4）（5）（6）を挙げ「だけ」と置き換えが可能な場合があると指摘している。

（4）社宅さえ $_2$／だけあれば、仕事がきつくても勤める。
（5）役柄さえ $_2$／だけ気に入れば、ギャラが安くても出演する。
（6）先方の課長にさえ $_2$／だけ話を通しておけば、あとは何とかなる。（沼田 2009:178）

しかし、(1) の誤用例の訂正のように、「さえ～ば」と「だけ～ば」のどちらかがより適切だと判断される状況があるのであれば、両者の使用原理の違いを説明する必要が生じるのである。

本稿は、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違いを考える。まず、2 節では「さえ～ば」と「だけ～ば」の同義性に言及した先行研究を挙げ、両者ともいわゆる「最低条件」を表すことができるがその相違点の説明には明確でないところがあることを示す。次に、「さえ～ば」と「だけ～ば」の置き換えの可能性が「だけ～ば」の二義性に関わっているため、3 節では、先行研究による二義性の解釈原理に不十分なところがあることを指摘し、本稿の説明を提示する。最後に、

---

1 坂原（1986）は、次のように述べている。

（i）山田さえその試験には合格した。

……はが導入するコントラストのため、“試験に”が限定表現として解釈される。したがって、この文は、“山田は他の試験には合格しなかった”という言外の意味を持つ。この種の例から考えるに、日本語では、限定表現の解釈を強制するは、もやさえの逆のことを行う。さらに、だけを考えあわせると、〈は⇔も〉、〈だけ⇔さえ〉のような対をなすと思われる。（坂原 1986:142 通し番号）

一方、近藤（2001、2003）は、次のように示しており、「だけ」も「さえ」も「尺度」という概念を用いて取り扱うことが示唆に富む。

	対立（限定）	並立（添加）
尺度	（限定・程度） だけ・ばかり	（添加・極限） も・まで・さえ
個物	（特立） こそ	（例示） など・なんか

（近藤 2003:65）

臺灣大學學報期刊資料庫

4 節では、「さえ～ば」と「だけ～ば」の使用原理の違いと、それに基づいた誤用例への説明を考察する。

二、「さえ～ば」と「だけ～ば」の同義性

両者の同義性について説明した先行研究としては沼田（1986、1991、2009）が挙げられる。1 節でも少し触れたが、沼田（2009）は「さえ～ば」の例文（4）（5）（6）を挙げ「だけ」と置き換えが可能だとしている。また、沼田氏は、同書で（7）も挙げて（8）のような二義性を指摘し、（8a）を「他者―否定」の解釈、（8b）を「他者―不要」が加わる「他者―否定」の解釈としている[2]。（8b）の解釈をすれば（7）の「だけ」は「さえ $_2$」に置き換えることができるとし、（9）のように述べている。

（7）彼だけを仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

（8）a 彼を仲間にし、彼以外を仲間にしなければプロジェクトが成功する。

b 彼を仲間にすれば、プロジェクトが成功する。そして彼以外を仲間にしなくても、プロジェクトは成功する。

（9）「さえ $_2$」と「だけ」の同義性は、条件節中の「だけ」の「他者―否定」の二つの解釈のうち、「他者―不要」の意味が加わる解釈の場合に生ずるのである。

ただし、「さえ $_2$」の場合は条件節内に分布しながら、意味の上では条件のとりたてになっている点、さらに常に「最低条件」を表す点に特徴があったが、「だけ」の場合はこれとは異なり、「だけ」が条件そのものをとりたてることはない。「だけ」はあくまで条件節内の要素をとりたてるだけであり、条件節全体が「最低条件」と解釈されるか否かは、語用論的環境による。

（沼田 2009:197-198、下線引用者）

[2] 沼田氏の用語で言えば、「X だけ～ば」の「X」は「自者（p.37）」、「X 以外」は「他者（p.37）」である。

臺灣大學學術期刊資料庫

上記の説明から、「さえ～ば」は条件を取り立てることから「最低条件」を意味するのが本質であり、「だけ～ば」は条件節内の要素を取り立てるだけであるから語用論的環境によって「最低条件」を意味することがある、と読める。しかし、日本語の言語感覚がなければ、そのいわゆる「語用論的環境」の判断は働かない。

沼田氏の「他者否定」「他者不要」や「最低条件」などについてさらに検討した先行研究としては、野口・原田（1996）と趙（2003）が挙げられる。野口・原田（1996）は「さえ」「だけ」の「最低条件・他者不要（p.161）」用法を考察している。趙（2003）は条件節における「だけ」と「さえ」について研究している。以下、野口・原田（1996）の結論をまとめておくが、趙（2003）は本稿の理解を越えたものがあるため、注として適当なところに入れて紹介する。

では、野口・原田（1996）の説明を表 1 にまとめてみた。

臺灣大學學術期刊資料庫

表 1 野口・原田（1996）の結論

	さえ	だけ
語彙的な機能	（10）「考慮対象中に、「さえ」の意味的スコープ内の述語で表される性質に相対的に序列（scale）を導入して、とりたてた要素（focus）がその最下点に位置する」（p.163）	（11）「考慮対象中に、とりたてた要素（focus）以外の要素で、「だけ」の意味的スコープ内の述語で表される性質を満たすものが存在しない」（p.164）
「最低条件・他者不要」解釈		
最低条件	（12a）「「最低条件」解釈は、「さえ」が「～ならば～」よりも広い意味的スコープをとることによって意味内容として導出され」る（p.163）	（13a）「「最低条件」解釈は、「だけ」が明瞭にする条件集合に内在する自然な序列に関して生じる」（p.164）
他者不要	（12b）「語彙的に導入される条件の序列上での推論による」（p.165（57））	（13b）「条件文解釈が生む自然な序列上での推論による」（p.165（57））
	（12c）「「他者不要」解釈は、条件の序列上での必要・十分条件に関する推論により生じる」（p.163）	（13c）「「だけ」を含む文の「他者不要」解釈については、条件文の形式によって解釈が分布するという問題もあり、それぞれの条件文の解釈過程の分析と合わせて、更に検討が必要である」（p.165）

このように、両者の違いについては、「さえ」による「条件の序列（p.165（57））」と、「だけ」による「条件集合に内在する自然な序列

臺灣大學學術期刊資料庫

（p.164）」と、指摘されているが、具体性に欠けているため、誤用例への説明としては明確とは言えない[3]。

以上の先行研究の説明を、本稿なりに表 2 にまとめてみた。

表 2 沼田（2009）と野口・原田（1996）の対応

	さえ～ば	だけ～ば
沼田（2009）	条件のとりたて	条件節内の要素をとりたてる
野口・原田（1996）	条件の序列	条件集合に内在する自然な序列

一方、澤田（2007）は次の 2 例（14）（15）を挙げてその違いについて（16）のように説明している。

（14）アイスだけあれば、機嫌がいい。

（15）アイスさえあれば、機嫌がいい。

（16）……「だけ」の場合は、明示された要素があれば、後件が成立することが主張され、それ以外の条件は否定される。しかし、「さえ」の場合は、明示された要素は、後件を成立させる十分な条件であり、それより含意関係上強い条件はあってもいいが、必要ないと含意している……

（澤田 2007:111、下線引用者）

「だけ」と「さえ」の対立を示すこの用例は大変示唆的であるが、下線部の意味はどういう意味なのであろうか。沼田氏の「他者否定」「他者不要」と照らし合わせると、下線部の意味は単に「他者否定」の解釈しかないのか「他者不要」の解釈をも含むのか不明である。

ここまで見てきたことから感じたのは、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違いを説明するために、序列の相違を具体的に示さなければなら

[3] 趙（2003）は、「「さえ」は、話し手の主観的評価による自者と他者となる集合要素間の序列に関わりをもつが、「だけ」は関与しない（p.215）」と主張している。このような説明から、つまり、趙氏は「だけ～ば」による「条件集合に内在する自然な序列」という説明に賛成しない、と読める。

著作権者の許諾なく無断複製・転載を禁ず 国立国語研究所学術情報リポジトリ

ないことと、その前に、まず、いわゆる「他者否定」「他者不要」の内実を究明する必要があることである[4]。

以下、3 節では、「他者否定」と「他者不要」の内実、すなわち「だけ～ば」の二義性の内実を検討し、先行研究の説明を補う。4 節から、「さえ～ば」と「だけ～ば」による序列の相違の考察に入る。

三、「だけ～ば」の二義性の内実

では、「だけ～ば」の二義性を取り上げた沼田（1986、1991、2009）の例文と二義性の内容をまとめてみる。前述した(7)(8)は次の(21)（22）として再掲される。

[4] 趙（2003）は、「従来の研究では、根本的に、どうして条件節の中での「だけ」文に「他者不要」「他者否定」という二義性が生じ、あるいはどちらかの解釈しか生じないのかについては解明されていない(p.221)」と述べ、「だけ～ば」の二義性の解釈原理を論じている。しかし、次節の注 8 で検討するように、その主張には理解しがたいものがあり、修正する余地も残される。

表 3 「だけ～ば」の二義性

	解釈その 1	解釈その 2
	（「他者―否定」沼田 2009:197）	（「他者―不要」の意味が加わる「他者―否定」沼田 2009:197）[5]
沼田（1986：196）	（17）投資だけすれば、もうかる。	
	（18a）投資をし、そして投資以外のことをしなければ、もうかる。	（18b）投資をすれば、もうかる。そして、投資以外のことをしてももうかるが、投資以外のことは必要でない。
沼田（1991：11-12）	（19）この病気は注射だけうてば治る。	
	（20a）この病気は、注射をうち、かつ、それ以外の他の手段を行わないならば、治る。	（20b）この病気が治るためには、注射をうつことで十分で、他の手段は必要ない。
沼田（2009：197）	（21）彼だけを仲間にすれば、プロジェクトは成功する。	
	（22a）彼を仲間にし、彼以外を仲間にしなければプロジェクトが成功する。	（22b）彼を仲間にすれば、プロジェクトが成功する。そして彼以外を仲間にしなくても、プロジェクトは成功する。

ここで疑問に思うのは、2 点挙げられる。

まず、沼田氏は、1986 年と 1991 年の研究で（b）を「他者不要」と呼んでおり、2009 年の研究で（b）を「他者不要の意味が加わる他

[5] 沼田氏は、1986 年の（18b）と 1991 年の（20b）を「他者不要」と呼んでおり、2009 年の（22b）を「他者不要の意味が加わる他者否定」と呼んでいる。

臺灣大學學術期刊資料庫

者否定」と呼んでいる。しかし、その呼び方の転換については説明していない。

もう一つは、「投資以外／注射以外／彼以外」の要素が（a）では（無益どころか）有害条件、（b）では有益条件、つまり互いに矛盾しているということである[6]。「だけ～ば」に互いに矛盾している意味解釈があるのでは、実際の読み取りには支障がないのだろうか[7]。

このような「だけ～ば」の両義性については、沼田（1999）は「他者否定」にしか解釈できない例と「他者不要」にしか解釈できない例を挙げているが、なぜそのどちらかにしか解釈できない理由は説明していない。しかし、その理由がまさに（9）のいわゆる「語用論的環境」なのであるため、説明する必要があると考えられる。

そこで、以下、沼田（1999）の例を用いて説明してみる。

「他者否定」にしか解釈できない例：

（23）害虫だけが殺せれば、この薬は、成功だ。

（24）安全な仕事だけをしていれば、事故の心配はない。

（25）ローカル線だけに乗れば、安上がりだ。

（26）親の目のとどく所だけで遊ばせれば、子供は安全だ。

「他者不要」にしか解釈できない例：

（27）塩と水だけがあれば、生きていられる。

（28）必要なものだけ手に入れば、文句は言わない。

（29）かなだけ覚えれば、手紙が書ける。

（30）英語だけ勉強すれば、世界中で暮らせる。

（31）ケアレスミスにだけ注意すれば、試験に合格する。

（沼田 1991:13）

---

6 無益とは、単に「あっても役には立たない」ことを意味している。しかし、有害条件とは、不要どころか、「あるとマズイ」、ということを意味している。

7 このような矛盾については、趙（2003）でも「「（他者）不要」とは、言葉通り、「必要でない」という意味をもつ「問わない（不問）」であり、「存在しない」といった「否定」ではない（p.221）」と述べ、（18b）の「投資以外をしてももうかる」ということは「他者肯定」であり、「「だけ」の基本的な意味「自者肯定・他者否定」には反するものとなる（p.221）」と指摘している。この指摘には部分的に賛成であるが、趙氏が主張している「だけ～ば」の二義性の解釈原理については納得できないところがある（注 8 参照）。

具体的に言うと、「X だけ～ば」における「X」と「X 以外」の要素間に正負二極対立の関係があるかどうか、ということが解釈に影響を与えると考えられる。正負二極対立の要素とは、「後件の成立に役立つ＝正の要素」と「後件の成立を邪魔する＝負の要素」のことである。「X だけ～ば」の意味解釈は、「X」と「X 以外」が互いに正負二極対立の要素として捉えられやすければ捉えられやすいほど、「他者否定」の解釈になりやすくなる。正負二極対立の要素として捉えられなければ捉えられないほど、「他者不要」の解釈になりやすくなる、と考えられる[8]。

---

[8] 趙氏の主張によると、「だけ～ば」文の意味は、「～ば」条件節が含意する「他の条件」の要素範囲と、「X だけ」が含意する「X 以外」の要素範囲を比べることによって決まる。要素範囲が一致しない場合は、「他者不要」「他者否定」という両義性が生じる。要素範囲が一致している場合は、「他者否定」の解釈は生じず「他者不要」の解釈のみが生じるという。具体的に言うと、次のようになる（趙 2003:221-223 参照）。

まず、「～ば」条件文（ii）の意味は（iii）のように解釈されるため、「治る」可能性による序列は低いものから高いものまで「就寝→投薬→注射→通院→入院→手術」というように想定できるという。

（ii）　注射を打てば治る。
（iii）a 注射を打たなければ（例えば、治る可能性の低い就寝、投薬等をすれば）治らない。
　　b 治るために、注射を打つ以外に通院、入院、手術をしても治る（可能性がある）が、それらのことは必要でない。
（趙 2003:221）

では、「だけ～ば」文（iv）の意味はどのように解釈されるのだろう。（iv）は、「他の条件」の要素範囲は「通院、入院、手術」であるのに対して、「X 以外」の要素範囲は、「通院、入院、手術」より広くて「運動、旅行、就寝、投薬」も含まれている。このように、両者の要素範囲が一致しないために、（v-a）「他者不要」と（v-b）「他者否定」の両義性が生じるのだという。

（iv）　注射だけ（を）打てば治る。
（v）a 治るために、注射を打ち、注射以外（例えば、通院、入院、手術等）をしてもいいが、その必要はない。　［他者不要］
　　b 注射を打ち、注射以外（例えば、運動、旅行、投薬、就寝等）をしなければ、治る。　［他者否定］
（趙 2003:222）

これに対して、「だけ～ば」文（vi）は、「他の条件」の要素は「食べ物、仕事、家族」であり、「X 以外」の要素も「食べ物、仕事、家族」である。両者の要素範囲が一致しているため、（vii-a）の解釈のみが成り立つという。

（vi）　水だけあれば、生きていられる。
（vii）a 生きるためには、水があり、水以外（例えば、食べ物、仕事、家族等）があってもいいが、その必要はない。　［他者不要］
　　b* 水があり、水以外（例えば、食べ物、仕事、家族等）がなければ、生きていられる。　［他者否定］
（趙 2003:222）

さらに、「～ば」条件文（viii）は（ix-a）の意味に解釈されるため、「他の条件」の存在は含意しない。この場合の「だけ～ば」文（x）は、（xi-b）「他者否定」のみを意味するという。

（viii）　ルーブル博物館に行けば、ヴィナス像が見られる。

筆者の学術出版資料庫

（23）～（26）の「X＋X 以外」は「害虫＋益虫」「安全な仕事＋危険な仕事」「安いローカル線＋高い新幹線」「親の目のとどく所＋親の目のとどかない所」といったような正負二極対立の要素の集合である。このような集合はもちろん「害虫＋害虫以外」といったように考えても可能であるが、「害虫以外」というのは結局「益虫」を指すわけである。このような集合の場合は「他者否定」の解釈になりやすい。これに対して、（27）～（31）の「X＋X 以外」は、「塩と水＋他の食物」「必須品＋随意品」「かな＋漢字」「英語＋他の外国語」「ケアレスミス＋他の誤り」といったような対立した要素集合ではあるが正負二極対立の要素ではないので、「他者不要」の解釈になりやすい[9]。

このような解釈原理と沼田氏の用語をまとめると表 4 になる。

（ix）a ヴィナス像を見るためには、ルーブル博物館に行くことが唯一条件である。
b* ヴィナス像を見るためには、他の博物館に行ってもいいが、その必要はない。
（x） ルーブル博物館だけ行けば、ヴィナス像が見られる。
（xi）a* ルーブル博物館に行けば、ヴィナス像を見られる。そして、ルーブル博物館以外に行ってもいいが、その必要はない。
［他者不要］
b ルーブル博物館に行き、他の博物館に行かなければヴィナス像が見られる。
［他者否定］
（趙 2003:223）

しかし、このような説明には疑問が感じられる。本稿の理解では、沼田氏の言う「他者否定」と「他者不要」は、その「他者」が同じ要素を指している。例えば、表 3 で示された（a）と（b）は、「投資以外／注射以外／彼以外」の要素が「他者否定」の「他者」でもあり「他者不要」の「他者」でもある。ところが、趙氏の例文を見ると、両方の「他者」は同じ要素を指すとは限らないようである。（v-a）と（v-b）は「注射以外」の要素が異なっているのに対して、（vii-a）と（vii-b）は「水以外」の要素が同じである。（v-b）を沼田氏の説明で考えると、次のように示すべきであろう。

（v）b′ 注射を打ち、注射以外（例えば、通院、入院、手術等）をしなければ、治る。

9 このような考えを用いて注 8 における趙氏の「だけ～ば」用例を説明し直すと、（vi）は「水＋他の食物」のような正負二極対立の要素集合ではないため「他者不要」と解釈され、（x）は「ヴィナス像のあるルーブル博物館＋ヴィナス像のない他のところ」のような正負二極対立の要素集合であるため「他者否定」と解釈される、と考えられる。（iv）は中間的なものとして見ても良いかもしれないが、どちらかというと「注射＋他の有効治療」というような「正負二極対立ではない集合」を捉えやすいため「他者不要」の解釈が優勢的であろう。

表 4 「X だけ～ば」の二義性とその解釈原理

沼田 1986	沼田 1991	沼田 2009	X と X 以外
「他者否定」	「他者否定」	「他者否定」	正負二極対立の要素と捉えられる場合
「他者不要」	「他者不要」	「他者不要の意味が加わる他者否定」	正負二極対立の要素と捉えられない場合

以上、「だけ～ば」の二義性の解釈原理を説明してみた。次節から、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違いの考察に入り、そして誤用例への説明を考える。

四、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違い

（一）「最低条件」と解釈し得る三形式

「最低条件」を表すには、「さえ～ば」と「だけ～ば」のほかに、「～ば」条件文も可能な形式であるため、それぞれを対立させてまとめると（32）になる。

（32）「最低条件」を表す

a「だけ～ば」VS.「～ば」

b「さえ～ば」VS.「～ば」

c「さえ～ば」VS.「だけ～ば」

「だけ～ば」VS.「～ば」については、野口・原田（1996）は「「だけ」を用いて「注射」をとりたてることによって、「注射を打つ」と比較される対象が明瞭になるという効果はありそうである（p.163）」と述べ、（33）と（34）の違いとしている。その「比較される対象」とは、「他の手段との組合せからなる条件である。このような条件集合には、その組合せ方によって、自然な序列が存在する（p.163）」という説明とともに、（35）が示されている。（35）のような条件は「注

臺灣大學學術期刊資料庫

射を打つ」に比べて治す効果が高く、「そのような序列の上で、「注射だけ」からなる条件は最下点に位置することになり、「最低条件」解釈が導かれると考えることができる（p.163）」とされている。

（33）注射だけ打てば治る。

（34）注射を打てば治る。

（35）注射と投薬
　　注射と投薬と通院
　　注射と投薬と入院　　（野口・原田 1996:162-163）

一方、「さえ～ば」VS.「～ば」については、陳（2020）の考察が挙げられる。結論的に言うと、「さえ～ば」が「序列関係あっての最低条件（p.99）」、「～ば」が「誘導推論による最低条件（p.99）」であるため、「さえ～ば」の使用の手がかりは「序列をなす複数の条件の存在（p.101）」と説明されている。

このように、「だけ～ば」も「さえ～ば」も、「～ば」との違いは「序列」の存在ということにある。それでは、「だけ～ば」と「さえ～ば」は、各自の序列が具体的にどのように異なるのであろうか。この残された課題については、以下、陳（2020）における「さえ～ば」の説明を踏まえて考察する。

（二）「さえ～ば」の意味・表現機能

陳（2020）は、沼田（2009）の例文（36）と、その意味（37）および説明（38）に基づいて、「さえ～ば」の意味を 2 種類の状況に分け、具体的に図 1 と図 2 のように示している。（説明の便宜上、原図に一部加筆しておく。「かけがえのない条件」という言い方は陳（2020）による。）

（36）彼さえ仲間にすれば、プロジェクトは成功する。

（37）a　彼を仲間にすれば、プロジェクトは成功する。
　　b　彼以外を仲間にすれば、プロジェクトは成功する。
　　c　彼を仲間にすることは、プロジェクトが成功するための最低条件である。

（38）「プロジェクトが成功する」条件となるのは「彼を仲間にす

臺灣大學學術期刊資料庫

ること」（37a）、あるいは「彼に加えて彼以外を仲間にすること」、「彼に代えて彼以外を仲間にすること」（37b）であり、後二者は「彼を仲間にすること」より強力な条件となる（37c）。（原注：（37c）から当然のことだが、「彼に代えて彼以外の人を仲間にする」際の「彼以外」に「彼」より条件として劣る人は含まれない。）そして（37b）（37c）から当然の帰結として、「彼を仲間にする」条件を満たせば、「彼以外を仲間にする」必要はないことになる。

（沼田 2009:176-177、通し番号、下線引用者）

状況 1：「彼（A）」はかけがえのない条件である

強い条件	A＋B＋C	成功する
↕	A＋B	成功する
弱い条件	A	さえ仲間にすれば、成功する。

図 1　「さえ～ば」状況 1

（陳 2020:86 図 1 より、一部加筆）

状況 2：「彼（A）」はかけがえのない条件ではない

強い条件	C	成功する
↕	B	成功する
弱い条件	A	さえ仲間にすれば、成功する。

図 2　「さえ～ば」状況 2

（陳 2020:86 図 2 より、一部加筆）

図 1 と図 2 から分かるように、「A さえ仲間にすれば」は、「A はかけがえのない条件である」と「A はかけがえのない条件ではない」の 2 種類の状況がある。どちらの状況でも、A が「最低条件＝弱い条件」であることは変わりがない。このように、「さえ～ば」だけを

臺灣大學學術期刊資料庫

考えるときは、確かに「最低条件」を用いて説明するのが本質的でありそれで十分である。

ところが、「さえ～ば」と「だけ～ば」の違いを考えることになると、「最低条件」という説明だけでは間に合わなくなってしまう。両者とも「最低条件」を表し得るのだから、ほかの説明を求めなければならない。

本稿では、「最低条件」というより、むしろ「条件の譲歩」という概念を用いて「さえ～ば」の表現機能を説明したい。「さえ～ば」は、図1と図2で示されたようにいずれも相対的に弱い条件と共起する。しかし重要なのは、より良い条件（相対的に強い条件）が存在する、ということにある[10]。すなわち、確かに「より良い条件」があれば申し分ないが、何らかの事情で、結果的に「相対的に弱い条件」へと譲歩するに至るのである。

この「条件の譲歩」が、次に述べる「だけ～ば」とは対立することになる。

（三）「だけ～ば」の意味・表現機能

比較の便宜上、ここでは再び（7）＝（21）＝（39）を取り上げる。（39）は、（40a）「他者否定」の解釈を図にすると、図3になり、（40b）「最低条件・他者不要」の解釈を図に示すと、図4になる。

（39）彼だけを仲間にすれば、プロジェクトは成功する。
（＝（7）（21））

（40）a 彼を仲間にし、彼以外を仲間にしなければプロジェクトが成功する。
b 彼を仲間にすれば、プロジェクトが成功する。そして彼以外を仲間にしなくても、プロジェクトは成功する。
（＝（8）（22））

臺灣學術期刊資料庫

[10] 坂原（1986）の、「“さえ”は条件文の前件において、使われた条件が十分条件の中でも弱いものであり、もっと強い十分条件が存在することを強調する（p.155）」という指摘は示唆に富む。

状況：「彼（A）」はかけがえのない条件である

多数の条件	A＋B＋C	成功しない
↕	A＋B	成功しない
少数の条件	A	だけを仲間にすれば、成功する。

図 3「だけ～ば」解釈その 1

状況：「彼（A）」はかけがえのない条件である

多数の条件	A＋B＋C	成功する
↕	A＋B	成功する
少数の条件	A	だけを仲間にすれば、成功する。

図 4「だけ～ば」解釈その 2

「さえ～ば」と違って、「だけ～ば」は、A が「かけがえのない条件」でしかあり得ない。「かけがえのない条件」なのだから、「譲歩できない条件」でもある。これこそ「だけ」による「限定」の効果であり、「だけ～ば」の表現機能は「条件の非譲歩」なのである。

また、「さえ～ば」の序列は条件の強弱によるものであるが、「だけ～ば」の序列は条件の強弱によるものではないと考えられる。図 4 だけを見れば、おそらく「だけ～ば＝最低条件＝弱い条件」という説明に疑問が感じられない。しかし、図 3 と図 4 を合わせて考えると、「最低条件」という用語は「だけ～ば」の本質を表せないように感じられる。そもそも、「だけ～ば」の本質を見るために、むしろ互いに矛盾した「二義」から共通点を取り出すことがポイントとなる。図 3 と図 4 の共通点は、つまり、A が常に「かけがえのない条件（必須）」だと考えられる。しかも、「A＋A 以外の条件」が正負二

臺灣大學學術期刊資料庫

極対立の要素として捉えやすいかどうかによって図 3 または図 4 の解釈になる（すなわち、「多数の条件＝強い条件」とは限らない）ことから、結局、「だけ～ば」の序列は条件の強弱問題というより、むしろ条件の多少問題である。条件が多く揃えば揃うほどいいのではなく、ある肝心な最少条件 A（この意味では最強条件でもある）を限定・指定するのである。これこそ、「さえ～ば」と「だけ～ば」の、各自の序列の違いである[11]。

（四）まとめ

「さえ～ば」は、条件の強弱という序列を前提としており、相対的に弱い条件へと譲歩するという表現機能を持つ。条件の譲歩であるため、比較的達成されやすい条件に聞こえることがある。

これに対して、「だけ～ば」は、条件の多少という序列になっており、相対的に少数の条件を限定している。少数の条件なのだから一見譲歩的に見えるが、実はその「かけがえのない条件」を限定・指定しているため条件の非譲歩を示しているのである[12]。

---

[11] ちなみに、趙（2006）は、野口・原田（1996）の（35）の序列による解釈に賛成せず、「「だけ」において、とりたてる要素と対比される要素の間の序列関係は成立しないと考えられるからである（p.212）」と述べている。

[12] なお、条件の性質（十分条件なのか必要条件なのか）についても少し検討したい。(3) の記述のほかに、例えば沼田（1992）は、次のように「さえ～ば」を必要最低限の条件と呼んだり、十分条件と呼んだりしている。

① 辞書があれば読める。
② 辞書さえあれば読める。

条件文の中の**さえ**は特別な働きをする。例②はまず①のように「辞書があれば読める」を表の意味とする。しかし**さえ**があることによって「辞書があれば、他の物がなくても読める」あるいは「辞書だけあれば読める」という意味になる。つまり条件文（＝前件）の後に続く文が表す事柄（＝後件）を成立させるのに、とりたてられる要素が必要最低限の条件であるという意味を表す。あるいは、それがあれば十分で、他の同類の要素は必要ではないという意味になる。この**さえ**を**十分条件**の**さえ**と呼ぶ。

注 1 **だけ**も条件文の中では、**十分条件**の**さえ**とほぼ同じ意味を表す場合がある。

注 2 この**さえ**が条件文の中に現れて、「その場合にはいつも必ず～する」のような意味になることがある。（沼田 1992:16 例文略）

このように、先行研究の記述では、「必要条件」「十分条件」のほかに、「最低限」「必要最低限」といった用語も現れている。本稿の理解では、「最低限」というのは、最低の「十分条件」のことを言っている。「さえ～ば」は「かけがえのない条件」であるかでないかに関わらず常に譲歩しているので、本質的には「十分条件」に属する。ただ、陳（2020）の指摘のように、「必要かつ十分条件」の解釈（＝唯一の条件）が優勢的であることも確かである。これに対して、「だけ～ば」は必ず譲歩できない「かけがえのない条件」であるた

表 5 「さえ～ば」と「だけ～ば」の違い

	さえ～ば	だけ～ば
条件の性質	十分	必要かつ十分
表現機能	相対的に弱い条件へと譲歩する	かけがえのない条件として譲歩しない

（五）誤用例への説明

では、この対立を用いて、冒頭の誤用例（1）を説明してみよう。まず、「規則」と「思いやる心」の序列関係は、図 5～図 8 のように 4 つの組み合わせがある。

状況：「規則」はかけがえのない条件である

規則＋思いやる心　　実現できる

規則　　さえ／だけあれば、実現できる。

図 5「思いやる心がなくても規則～あれば」の場合 A

状況：「規則」はかけがえのない条件ではない

思いやる心　　実現できる

規則　　さえ／*だけあれば、実現できる。

図 6「思いやる心がなくても規則～あれば」の場合 B

臺灣大學學術期刊資料庫

め、本質的には「必要かつ十分条件」に属する。いわゆる「必要最低限」とは、「必要条件」と「十分条件」の性質を合わせていると考えられる。

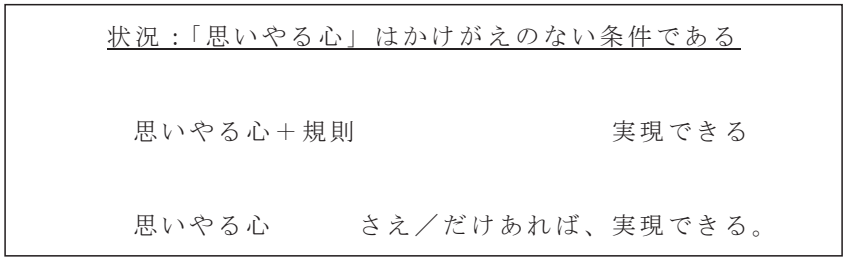


図 7「規則がなくても思いやる心～あれば」の場合 A

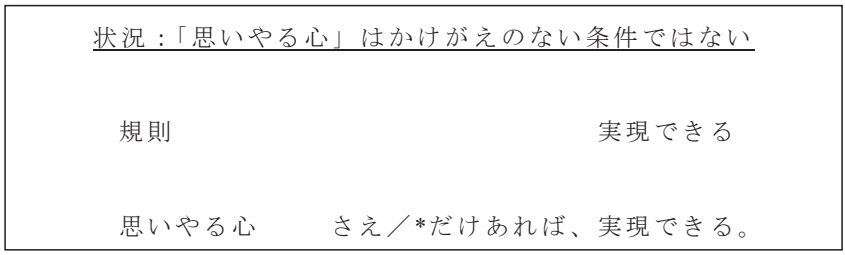


図 8「規則がなくても思いやる心～あれば」の場合 B

しかし、(1)(2) は「規則がなくても思いやる心～あれば」という述べ方であるため、図 5 と図 6 の可能性が排除される。(図 5 と図 6 の場合は「思いやる心がなくても規則～あれば」という述べ方になるはずである。) それで、残ったのは図 7 と図 8 である。

図 7 と図 8 の違いに注意されたい。図 7 の場合は、「さえ」も「だけ」も使える、しかも、「思いやる心」は「かけがえのない条件」である。これに対して、図 8 の場合は、「さえ」しか使えず「だけ」は使えない、しかも、「思いやる心」は「かけがえのない条件」ではない。

では、(1)(2) の文脈は、どちらの図のほうにあたるのであろうか。(1)(2) は、本来ならば整備された社会は「規則」があるべきところであり、「規則」のある社会ではたとえ思いやる心のない人でもその規則を守らなければならないが、現にそれほど整備されてい

臺灣大學著作權授權資料庫

ないものだから「規則」の代わりに「思いやる心」を申し出る、という文脈だと読み取られる。したがって、「規則」と「思いやる心」の序列関係は、どちらかというと、図7よりも図8のほうにあたると考えられる。

ただ、おそらく、誤用例には、「思いやる心＋規則」があったほうが良いが「規則」はないから「思いやる心」しか取り上げない、という使用心理があるのだろう。この心理から言えば、確かに図8よりも図7のほうにあたるので、「だけ」も「さえ」も使用できる。だから、(3) で示されたように「だけ」を使用しても「誤りではない（p.326)」「文法的に間違いではない（p.326)」というわけである。

しかし、たとえ図7のようなことを表そうとしても、「だけ」を使用するか「さえ」を使用するかによって表5のような表現機能上の相違があるのである。本当は譲歩しないという「だけ」のニュアンスと違って、「さえ」の使用は、その譲歩的なニュアンスを通して後件のことを実現させる意欲が感じられる。これこそ、(3) で言う「望ましい事柄の実現のために（p.326)」という意味合いの裏に潜んだ「譲歩」の発話心理だと考えられる。

ちなみに、慣用形式「暇さえあれば」は存在するが、「*暇だけあれば」は成り立たない。これにも「さえ～ば」の譲歩のニュアンスが体現される。「暇さえあれば」という表現は、「暇がある（＝空き時間がある)」状況が相対的に達成されやすい状況を指すことから「いつも／頻繁に」という意味になるわけである。

（六）いわゆる「他者否定」を振り返って

最後に、いわゆる「他者否定」について考え直したいが、その前に、まず、澤田（2007）の例をもう一度考えてみよう。

（41）アイスだけあれば、機嫌がいい。　（＝（14））

（42）アイスさえあれば、機嫌がいい。　（＝（15））

本稿は、まず、表現機能から両者の違いを説明したい。「さえ」は相対的に達成されやすい条件を表すためご機嫌を取りやすいことを言っている。「だけ」は譲歩できない必要不可欠な条件を表すため、

臺灣大學學術期刊資料庫

ご機嫌を取る唯一の指定を言っている(「アイスがなければ機嫌は良くならない」という読み合いが出る)。

また、澤田氏の言う「それ以外の条件は否定される(p.111)」((16)参照)ということは、「指定された条件はかけがえのない条件であるのだから、それ以外の条件は否定される」という意味で理解しても良いと考えられる。しかも、「否定」という用語は中立的であると言える。なぜなら、「X」と「X 以外」が正負二極対立の要素として捉えられやすい場合もあれば、捉えられにくい場合もあるからである。沼田氏が 1986 年と 1991 年の「他者不要」から 2009 年の「他者不要の意味が加わる他者否定」と呼ぶようになるのは、おそらくこのようなことを勘案した上での用語の転換なのではないかと考えられる。

五、おわりに

本稿では、誤用例の修正のために、表現機能の側面から、譲歩の「さえ～ば」と非譲歩の「だけ～ば」という対立した違いの説明を考案した。「さえ～ば」が相対的に弱い条件(いわゆる「最低条件」)へと譲歩するのに対して、「だけ～ば」は、譲歩しない「かけがえのない条件」であるから、この意味では「最少(でありながらの最強)条件」を意味すると言えるのかもしれない。

本稿の考察は、主に沼田氏(7)(36)と澤田氏(14)(15)のような最小対立になる例文を詳しく検討することに焦点を置いている。本稿の主張が他の実例にも通用できるかどうか、今後の課題としたい。また、中西(2012)は「さえ～ば」を「否定の用法で限定を表す(p.181)」と指摘しているが、否定の用法に関する検討は、本稿の力を超えたところにあるため、これも今後の課題として挙げられる。

【謝辞】投稿にあたって、広島大学の白川博之先生からアドバイスと勇気を頂きました。また、修正の際に、審査委員の方々から助言を頂きました。感謝の意を表します。

臺灣大學學術期刊資料庫

【付記】本論文は、109 年度科技部研究計画案（109-2410-H-002-194-）による研究成果の一部分である。

【参考文献】

市川保子・浅山友貴・荒巻朋子・板井美佐・太田陽子・坂本まり子・杉本ろここ・副島昭夫・田代ひとみ・野田景子・本郷智子（2010）『日本語誤用辞典』スリーエーネットワーク

近藤泰弘（2001）「記述文法の方向性―とりたて助詞の体系を例として」『國文學：解釈と教材の研究』46（2）學燈社、pp.20-25

近藤泰弘（2003）「第 3 章　名詞句の格と副―格助詞と副助詞の性質」北原保雄（監修・編）『朝倉日本語講座 5　文法I』朝倉書店、pp.52-69

坂原茂（1986）「“さえ”の語用論的考察」『金沢大学教養部論集（人文科学編）』23-2、金沢大学教養部、pp.48-80

澤田美恵子（2007）『現代日本語における「とりたて助詞」の研究』くろしお出版

趙愛淑（2003）「条件節における「だけ」と「さえ」について」『日本學報』54、韓国日本学会、pp.213-226

趙愛淑（2006）『現代日本語における限定のとりたて詞の研究』제이앤씨

陳昭心（2020）「「さえ～ば」と「～ば」の違いについて―どのように「最低条件」を表すのか―」『台大日本語文研究』40、pp.77-105.

中西久実子（2012）『現代日本語のとりたて助詞と習得』ひつじ書房

沼田善子（1986）「とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社、pp.105-225

沼田善子（1991）「とりたて詞文の二義性」『日本語・日本文学』3、同志社女子大学日本語日本文学会、pp.1-18

臺灣大學學術期刊資料庫

沼田善子（1992）『日本語文法セルフマスターシリーズ 5　「も」「だけ」「さえ」など―とりたて―』くろしお出版
沼田善子（2009）『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房
野口直彦・原田康也（1996）「とりたて助詞の機能と解釈：量的解釈を中心にして」『制約に基づく日本語の構造の研究』10、国際日本文化研究センター、pp.145-166

臺灣大學學術期刊資料庫